

周波数ひっ迫対策技術試験事務 平成29年度継続評価結果

案件名	実施期間	評価会での主なコメント	評価点
無線LANのDFSにおける周波数有効利用の技術的条件に関する調査検討	H28～H29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画通り、シミュレーションを用いてMPLレーダーにおけるDFSの受信感度の閾値を導出し、また市販の無線LANを用いたDFSの試験結果より、DFSはパルスバタンの組み合わせにも依存することが判明するなどの結果を得ている。</li> <li>・設定されている基準にあまり問題がないことが確認されており有効である。</li> <li>・5GHz帯無線LANのDFSに関し、気象レーダーがMPレーダーに置き換わった場合、無線LANのDFSのレーダー波検出レベルの閾値を下回る場合があり、DFSが動作しないことにより、無線LANとの間で混信が発生する可能性があり、周波数共用が困難となる。この為、DFSの測定条件の見直しを図る本技術試験事務は総合的に見て有益と考えられる。</li> </ul>	4.1
公共分野におけるブロードバンドシステムの利用拡大のための技術的条件に関する調査検討	H26～H29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・逼迫している5GHz帯の効率的な利用のために本事務は必要であり、有益な成果が得られるものと考えられる。</li> <li>・陸上伝搬だけでなく海上伝搬の回線設計が重要なテーマなので、早急に海上伝搬の屋外実験をすべきである。</li> <li>・年度の実施計画、体制、予算計画は妥当であると思われる。これまでの試験結果、ロードマップを明らかに示して欲しい。</li> </ul>	3.5
移動型の携帯電話用災害対策無線通信システムに関する検討	H27～H29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見直しを含め丁寧に検討されており、計画通り進捗していると評価できる。</li> <li>・災害に対して期待される調査検討であり、来年度は最終年度でもあることから、実運用上で考慮すべき点をヘリコプター操縦士にもわかるようにうまくまとめていただきたい。</li> <li>・ヘリコプター搭載アンテナやその位置、受信電力特性などを詳細に実験して検討しており、総合的に見て有益と考えられる。</li> </ul>	4.3
次世代の航空機着陸誘導システム(GBAS)の導入のための技術的条件に関する調査検討	H28～H29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検証計画作成、動向調査、机上検証、屋内検証、屋外検証に向けた調査について、2年の全体計画の最初の1年間で着実に当初の目標を達成している。</li> <li>・今後の実施計画も1年目に検討した屋外検証を中心に行う予定であり、予算計画についても妥当である。</li> <li>・GBAS導入のための技術試験事務として急がれる中、航空機の安全運行や放送システムの安定な運用から、十分な共用条件の導出が求められる。このような状況で必要な進捗を達成しており、次年度計画も明確である。</li> </ul>	4.2
漏えい電波からの無線設備保護に向けた技術的条件に関する調査検討	H28～H30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね計画通りに進捗していると見受けられる。</li> <li>・10kHz～6GHz帯という広範囲な周波数帯域に対して、着実に課題を解決すべく実施計画が立てられており、予算も妥当である。</li> <li>・シグナルアナライザによる漏えい電波のI/Qデータ取得および取得データの後処理による測定法の確立は、汎用性が高く評価できる。</li> </ul>	3.8
12GHz帯BS・CSデジタル放送の周波数有効利用のための技術的条件に関する調査検討	H28～H29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初の計画通りに進捗しており、特段問題は生じていないように見受けられる。</li> <li>・市販の無線LANについてDFS試験を実施し、閾値はMPLレーダーの場合でも十分であることを実証し、LCXについてもDFSが正常に動作することを確かめた点は大きな進歩である。</li> <li>・計画通りに進捗していない箇所があるように見受けられ、今後の対応については明確にすべきであると思われるが、成果目標が達成されれば有益なものになると考えられる。</li> </ul>	4.0
23GHz帯無線伝送システムの双方向化等に関する技術的条件の調査検討	H28～H29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標自体が実現可能な領域であり、技術的に枯れた技術を基本とするので、目標に近い成果を上げている。</li> <li>・技術的な観点および装置の小型・軽量化の実現見通しが得られたとしても、双方向化のためにアンテナ系の追加が必要になることは、固定局にしても移動局にしても、大きな負荷となる。今後の検討すべき課題として提言をまとめていただきたい。</li> <li>・双方向化について、本技術試験事務では送受別アンテナでの実現が良いと考えるが、シングルアンテナでの実現可能性について、更なる検討の機会が必要である。</li> </ul>	3.8
1.7GHz帯等における携帯電話用周波数の確保のための技術的条件に関する調査検討	H28～H30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初年度としては目標をほぼ達成していると判断される。</li> <li>・1.7GHz帯等における携帯電話用周波数の確保のための技術的条件に関する調査検討に対し、必要かつ適切なものとなっていると考えられる。平成28～30年度の初年度であり、次年度に向けさらなる成果が期待される。</li> <li>・測定内容や測定場所の妥当性など、もっと検討の内容を深めていただきたい。</li> </ul>	4.0